

各種めっきによる金属表面処理を行う（株）駒ヶ根電化は、「環境負荷物質を使用している企業の責任」を明確に打ち出し、環境に対応した設備投資を積み重ね、技術開発と環境保全を追求してきた。

自動車部品を扱ったことが強みに

創業当初は自動車部品のめっき加工を中心に手がけていた駒ヶ根電化。その後事業領域を広げ、現在では自動車部品のほかコンピュータ部品、電子・電機部品、音響部品をはじめ幅広い分野に進出している。

業容拡大の背景として、山下善廣社長は「1975年の中央自動車道駒ヶ根インターチェンジの開通で、中京圏の企業との結びつきが強くなったこと」に加え、「長年にわたり人命に直接関わる自動車の重要保安部品を扱ってきたため、どんな分野の加工でもメーカー側の品質要求に応えられるだけの蓄積ができたこと」をあげる。当時の防衛庁認定工場となったことも、「認定が企業業績に直結したわけではないが、品質の裏付けとしては大きな意味があった」と振り返る。

技術開発と環境保全を2本柱に、「人と自然と技術の共存」を永遠のテーマに掲げている。環境重視の姿勢は、排水の一部が工場外へ流出したという過去の苦い経験を二度と繰り返さないという強い信念に基づいている。

めっきラインを地下埋設

駒ヶ根電化はこれまで、環境に配慮しためっき技術や排水処理システムの開発、環境に負荷を与えない水のリサイクルを進めてきた。昨年



地下に埋設されためっきライン

7月には「環境保全技術の革新による経営体質強化」をテーマに中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認を取得。環境負荷物質の低減、生産効率の向上を目的とする全自動静止ジンケート亜鉛めっき装置を導入したのも、この計画の一環である。

めっきラインの地下埋設にも力を入れている。工場に高い耐震性能を持たせうえて、2m近く掘り下げて埋設した巨大ピット内にめっき装置を設置。災害時に液体が工場外へ流出することを防ぐもので、5月から一部のラインが稼働を開始している。来期中には全ラインの埋設が完了するとともに、主なラインからの毒物撤去も進行中である。

企業の社会的責任（CSR）に対する意識を強く持ち、環境対策のほかにも従来から障害者雇用を積極的に行ってきた。障害者職業生活相談員の資格を持つ社員のサポートを受け、現在も8名の障害者が作業に従事している。

商工会議所会頭として

山下社長は昨年11月、駒ヶ根商工会議所会頭に就任した。駒ヶ根市はここ数年企業誘致で実績をあげており、製造業の集積が高まるに連れ理工系大学の学生が駒ヶ根で就職を希望するケースも増え、活性化が期待できる状況だという。

一方、中心市街地の衰退をはじめ地域経済全体では課題も多いとの見解を示す。先月、市に対し原油高・材料高の影響を受けている事業所への支援を要望（市側は経営改善資金で対処すると回答）。今後も地域経済の発展に貢献し、商工会議所の自立経営を目指した取り組みも推進していく意向である。

【株式会社駒ヶ根電化】

資本金1660万円、1946年7月創業、駒ヶ根市飯坂2-5-10、代表取締役社長山下善廣氏、従業員110名（派遣含む）。2008年5月期の年売上高は約17億円。